留学体験記

カナダ マギル大学

藤田 早斐（95回）

①留学のきっかけ

私は、カナダにあるマギル大学に、大学4年次の2023年9月から約8ケ月の交換留学に行ってきました。私にとって、留学は卒業や進路のために絶対に必要なものではありませんでした。そのため、憧れはあっても、半年以上の長い時間を強い目的意識も持たずに留学に費やすことはあまり現実的ではないのではないかと思っていました。そんな私の背中を押してくれたのは、一足早く交換留学をしていた親友の存在でした。「何をしたいかはあまり決まっていないけれど、色々あると思うから」と、私と同じように悩みながらもポジティブに出国し、身の回りのあらゆることに目を向けては飛び込み、貪欲に多くを学び取って見聞を広げるその姿を見て、「きっと私も、行ってみて頑張れば何か大切なものを得られるはずだ」と直感しました。もちろん、留学生活の詳しい様子を教えてもらう中で具体的なイメージができるようになったことも大きな助けでした。

②学習・学校でのこと

交換留学とは、協定校同士が学生を交換する制度です。語学留学とは趣旨が異なり、学生は現地の大学教育を受けることになるため、私は自分の専攻である文化人類学を中心とした授業を英語で受けていました。

大学の授業スタイルは、国や地域によってかなり異なります。私の留学経験で特に衝撃的だったことは、一学期の履修科目数が4ないし5と少なく、1科目には週3時間（大抵1時間半×2コマ）の授業時間があてられ、内容が非常に濃かったことです。毎回の授業のために何十ページもの文献を読んでおく必要があり、スピードと理解深度のバランスをどう取るか試行錯誤していました。文献の分析や自分の意見などのアウトプットを求められる機会も圧倒的に多く、常に頭を動かしている必要がある状況は大変でしたが刺激的でした。

印象的だったのは、宗教人類学の授業のフィールドワークの課題でした。宗教的なイベントを見つけて参加し、インタビューや参与観察から授業のトピックと絡めた考察を行うもので、私は偶然出会った日本人クリスチャンの方に教会の集まりに招待していただき、宗教観の変化について研究しました。キリスト教が社会構造や言語そのものに大きく影響を与えていると同時に多文化社会でもあるカナダという場所について、より深く理解できたように思います。

③学校や町の魅力

マギル大学があるモントリオールという都市は、カナダの中で最もフランスの影響が強いケベック州にあります。大学内の公用語は英語であるものの、街ではケベック訛りのフランス語が飛び交います。また、場所によってはヨーロッパのような街並みも見られます。オフの時に様々な地区を歩くことがとても楽しかったです。

モントリオールの夏は最高だとよく言われますが、私の滞在期間はほとんどが寒い時期で、きびしい気候に対応する必要がありました。それでも、雪国ならではの楽しみもあり、雪が舞う中での屋外フェスや、無料の屋外スケートリンクに友人たちと行ったことは良い思い出です。

雪の中の屋外フェス

McGill UNIVERSITY

ハウスメイトたちとのドライブ旅行

④日常生活・文化の違い・観光

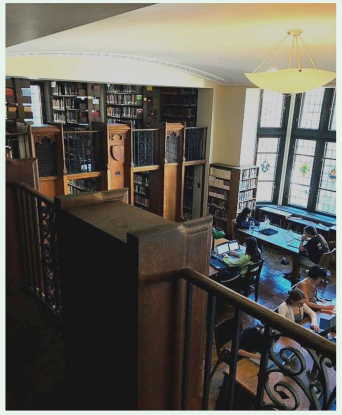
私は交換留学生15人が住むシェアハウスで生活をしていました。共用部分での挨拶やおしゃべりをはじめ、日頃からチャットで連絡を取り合い、食堂で一緒に夕食を取ったり、図書館で勉強したり、休暇中には一週間カナダ北東部へドライブ旅行に行ったりと、様々な関わりがありました。密な関係の中で絆が深まった一方で、設備の使い方や共同での意思決定において齟齬が発生し、もどかしい思いもしました。しかし、日本にいるときにはおざなりにしてしまいがちだった、言葉で思いを伝え合う態度を徹底することで、よりよい共同生活に近づいたのを実感しました。

趣味で始めたラテンダンスでは、非常にさまざまな発見がありました。多様な人々の集まる場所であるから尚なのか、言葉を使わないコミュニケーションの持つ力の強さや豊かさに驚かされました。こうしたダンスの形式に組み込まれた強固なジェンダー規範の在り方、文化に占めるダンスや音楽の重要性もまた、初めて触れるもので興味深かったです。

⑤結びとこれから

私の留学生活は、予想外の出来事で満ちていて、それらを乗り越えていく中で自分でも考えもしなかったような成長を遂げられたと思います。初めて外国に住む経験をしたことで、世界に対する見方が大きく変わり、戸惑い、何度も立ち止まりましたが、そのような時間を得られたこともまた、慌ただしく過ぎる大学の4年間を一時休止した大きな意義でした。私は将来社会科教育に携わりたいと考えていて、今回の経験はそれに大きく生きていくだろうと確信しています。

最後に、留学に大きなお力添えをくださった38池田勲夫基金に心より感謝申し上げます。冒頭にも述べたように、私の留学は様々な後押しによって実現しましたが、この体験記が、留学を考えている他の方のお役に少しでも立てることがあれば幸いです。



大学にある、お気に入りの図書館

海外留学奨学金基金を利用しよう

返済不要の給付型奨学金です

関東在住の土佐高卒業生の若者に、是非海外の文化や最新の技術等を体験して欲しいと、38回生の有志が海外留学奨学金【38池田勲夫基金】を創設され、返済不要の給付型奨学金として、藤田さんを始めとする留学生を応援しています。

夢や目標のある方、関する土佐の名に叶おうとするものは是非応募してみませんか。

申請の受付については、関東支部HPでお知らせしています。

土佐校同窓会関東支部HP　https://www.tosako-kanto.org/index.html